



2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年11月9日

上場会社名 株式会社カネカ

上場取引所 東

コード番号 4118

URL https://www.kaneka.co.jp/

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 田中 稔

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 IR・広報

(氏名) 石田 修 (TEL) 03-5574-8090

(Investors & Public Relations)部長

四半期報告書提出予定日 2022年11月11日

配当支払開始予定日

2022年12月5日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	380,602	15.2	20,813	△9.6	22,518	7.8	16,568	12.2
2022年3月期第2四半期	330,267	23.8	23,015	227.2	20,891	420.0	14,766	496.2

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 26,605百万円(40.2%) 2022年3月期第2四半期 18,972百万円(188.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	252.67	252.04
2022年3月期第2四半期	226.35	225.75

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第2四半期	775,529	434,031	53.6
2022年3月期	726,959	412,204	53.3

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 415,425百万円 2022年3月期 387,150百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	50.00	—	60.00	110.00
2023年3月期	—	55.00			
2023年3月期(予想)			—	55.00	110.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	760,000	9.9	40,000	△8.2	39,000	△4.5	27,000	1.9	410.05

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料12ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2023年3月期2Q	68,000,000株	2022年3月期	68,000,000株
② 期末自己株式数	2023年3月期2Q	999,274株	2022年3月期	2,761,323株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2023年3月期2Q	65,573,827株	2022年3月期2Q	65,239,185株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
- ・当社は、2022年11月9日に、機関投資家及び証券アナリスト向けの決算説明会を電話にて開催する予定です。

【添付資料】

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 経営成績に関する説明	P. 2
(2) 財政状態に関する説明	P. 4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	P. 6
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	P. 10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 12
(継続企業の前提に関する注記)	P. 12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 12
(会計方針の変更)	P. 12
(セグメント情報等)	P. 13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

➤ **世界経済の状況** —先行きの不透明感が広がる—

当第2四半期累計期間（2022年4月～9月、以下2Q累計）の世界経済は、コロナ感染による社会影響が緩和に向かう一方、ウクライナ情勢の混迷、エネルギー・原材料価格の高騰と下落、世界的なインフレの加速と金利上昇による景気減速、大幅な円安進行など不安定な情勢で推移しました。

➤ **当社グループの業績** —先端事業群が伸長し、経常利益・四半期純利益増—

このような状況のなか、当社グループの2Q累計の業績は、売上高380,602百万円（前年同期比15.2%増）、営業利益20,813百万円（前年同期比9.6%減）、経常利益22,518百万円（前年同期比7.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益16,568百万円（前年同期比12.2%増）となりました。

2023年3月期 第2四半期 連結業績 (単位：百万円)

	2022年3月期 2Q累計	2023年3月期 2Q累計	増減
売上高	330,267	380,602	50,335 (15.2%)
営業利益	23,015	20,813	△2,202 (△9.6%)
経常利益	20,891	22,518	1,627 (7.8%)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	14,766	16,568	1,801 (12.2%)

セグメント別売上高・営業利益

(単位：百万円)

	売上高				営業利益			
	2023年3月期			前年同期比	2023年3月期			前年同期比
	1Q	2Q	2Q累計		1Q	2Q	2Q累計	
Material SU	88,919	83,975	172,895	32,005 (22.7%)	10,756	7,947	18,703	739 (4.1%)
Quality of Life SU	45,000	42,194	87,195	4,460 (5.4%)	4,600	4,069	8,669	△654 (△7.0%)
Health Care SU	16,623	17,369	33,993	7,375 (27.7%)	3,856	3,653	7,510	2,257 (43.0%)
Nutrition SU	41,879	44,091	85,970	6,490 (8.2%)	806	1,296	2,103	17 (0.8%)
その他	316	231	547	2 (0.5%)	186	95	282	31 (12.5%)
調整額	-	-	-	-	△7,994	△8,460	△16,455	△4,593 (-)
計	192,739	187,863	380,602	50,335 (15.2%)	12,212	8,601	20,813	△2,202 (△9.6%)

第2四半期（以下2Q）に入って世界経済の減速感が強まるなか、当社はVinyls、MODやE&Iが市場の需給調整や市況下落の影響を受けました。そのなかでも先端事業群（Health Careなど）は、独自の差別化技術による市場拡大が進み、順調に業績を伸ばしました。事業ポートフォリオ変革は着実に進んでいます。

各セグメントの状況は次のとおりです。

① Material Solutions Unit

同ユニットは、全体として2Q累計は前年を上回り、増収増益となりました。

- Vinylsは、塩ビのアジアスポット市況が2Qより軟化したものの、か性ソーダが業績を牽引し前年を上回る実績となりました。今後はアジア市場の需給調整がカギです。
- MODは、2Qに欧米の住宅向け硬質塩ビ用途にブレーキがかかり2Q累計としては前年を下回りました。非塩ビ用途の開発、R&B活動を強化しています。
- MSは、引き続きシーリング材・接着剤用途向けの販売が堅調に推移し、前年並みの実績となりました。着実に成長が期待されるSVであることからベルギーでの能力増強を8月に決定し、本年度末に次の能力増強を検討しています。
- Green Planetは、日欧米の大手ブランドホルダーとの共同開発が順調に進んでいます。国の重点政策「バイオものづくり」の社会実装に向け、水素酸化細菌によりCO₂と水素からGreen Planetを生産する革新技术の研究開発に鋭意取り組んでまいります。

② Quality of Life Solutions Unit

同ユニットは、E&Iの需給調整の影響を受け、増収減益となりました。

- Foamは価格改定に注力しました。国内需要は1Qを底に着実に回復しています。海外については自動車分野が半導体等のサプライチェーンの混乱が続いており、回復が遅れています。
- 原油・石炭の高騰に始まり、エネルギー危機（電力不足）が世界的に表面化しています。そのことを背景に当社のPVへの引き合いが高まっています。東京都の「2030年カーボンハーフ」に向けたPV設置義務化等の政策的な動きが全国的に広がり、住宅向け高効率太陽電池の販売が拡大しています。ヘテロジャンクションPVの増産の決定をしました。PV設置による自己託送などCO₂削減に寄与する取り組みも積極的に進めています。
- E&Iは、スマートフォン市場、大型テレビ市場のサプライチェーン全体の需給調整の影響を大きく受け、業績は前年を下回りましたが、今後の市場拡大に向けてアクリルフィルム用樹脂の生産能力40%増強を決定しました。5G、フレキシブルディスプレイ、画像センサー部品などの市場を先回りしたカネカならではの新しい製品開発に注力しています。
- Fiberは、前年並みの業績となりました。頭髮製品は今後のインフレによる需要減が考えられますが、差別化新製品の投入により需要拡大を図ります。難燃資材向けはアジアでの販売が拡大しました。

③ Health Care Solutions Unit

同ユニットは、大幅な増収増益となりました。

- Medicalは主要業種である血液浄化器およびカテーテルの販売が国内外で順調に拡大し続けています。ベトナム工場の生産能力を3倍に増強しました。大市場である米国の販売体制の強化を着実に進め、Medical事業のグローバル展開を加速します。新型コロナPCR検査薬の生産を倍増しました。抗原検査キットも生産体制を拡大します。
- Pharmaは、カネカユーロジェンテックでのコロナワクチンなどバイオ医薬品CDMO事業が順調に拡大しています。事業基盤の拡大に向けてmRNA用生産設備の能力増強を準備中です。抗ウイルス薬新規大型案件や抗体医薬品精製用プロテインA担体の販売も業績に大きく寄与しています。

④ Nutrition Solutions Unit

同ユニットの2Q累計業績は、2Qより回復し前年並みとなりました。

- AB-Bioticsの乳酸菌事業の業績は大きく拡大しました。グローバル生産販売体制の強化を進めています。還元型Q10の生産がフルに近づいており、増産の検討を進めています。機能性表示食品の品揃えを強化しています。
- Foods & Agrisは、食品値上げ報道等による買い控えが広がっています。大型台風などの天候不良もありましたが、価格改定や高付加価値品の販売拡大により業績は回復しています。8月に新発売した機能性表示食品「わたしのチカラQ10ヨーグルト」「わたしのチカラQ10ヨーグルトドリンクタイプ」は、市場・マスコミの評価が高く、販売が拡大しています。おいしさと健康をテーマとした商品を充実させてまいります。

(2) 財政状態に関する説明

- 資産、負債及び純資産の状況
2Q末の総資産は、棚卸資産の増加等により前期末に比べて48,569百万円増の775,529百万円となりました。負債は、借入金の増加等により26,742百万円増の341,498百万円となりました。また、純資産は、利益剰余金や為替換算調整勘定の増加等により21,827百万円増の434,031百万円となりました。
- キャッシュ・フローの状況
2Q累計の営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益や減価償却費等により10,412百万円の収入となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出等により20,975百万円の支出となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の増加等により3,684百万円の収入となりました。この結果、現金及び現金同等物の当年度上期末残高は、35,151百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

IMFは、本年7月に2022年世界GDP成長率の見通しを3.2%へ引き下げ、10月には2023年の見通しを2.7%に引き下げました。EU圏や米国の経済減速をはじめ中国・アジアの景気後退が表面化してきており、世界経済は全体として後退感が強まると考えられます。

2Qまでの業績及び今後の事業環境の見通しを踏まえ、2022年5月12日公表の連結業績予想を修正いたします。

2023年3月期（2022年4月1日～2023年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	740,000	48,000	43,000	28,000	420.60
今回修正予想 (B)	760,000	40,000	39,000	27,000	410.05
増減額 (B - A)	20,000	△ 8,000	△ 4,000	△ 1,000	
増減率 (%)	2.7	△16.7	△9.3	△3.6	
(参考) 前期連結実績 (2022年3月期)	691,530	43,562	40,816	26,487	406.01

3Q以降については、Material SUの欧米・アジア市場の需給調整がどのくらいの震度でいつまで続くのかが鍵とされます。スマートフォン・TVなどエレクトロニクス市場の需給調整も続くと想定されます。インフレが進むアフリカ市場の消費需要も回復が遅れる見通しです。

一方、2Qまでに原材料高騰の影響を強く受けたFoam & Residential Techs SV、Foods & Agris SVでは価格改定が進み、収益性が着実に改善する見込みです。また、Health Care SUは、引き続き差別化力ある新製品の販売拡大を主体に着実に成長を維持し、増収増益が続く見通しです。

セグメント別には、下記のとおり業績予想を修正するものの、Material SUを除くすべてのセグメントで増収増益を確保する見通しです。先端事業群の収益構成比を向上させ、着実にポートフォリオ変革を進めます。

事業環境の先行きがますます不透明なか、当社は「Adaptability」力を最大限に発揮し、海外市場における強いグローバルネットワーク力を活かしながらコア事業群（Vinyls、MOD、Fiberなど）の競争力と先端事業群（Health Care、MSなど）の成長力を徹底して高め、収益基盤を強化してまいります。

セグメント別業績予想

(単位：百万円)

	売上高			営業利益		
	前回予想	今回修正予想	増減	前回予想	今回修正予想	増減
Material SU	320,000	340,000	20,000 (6.3%)	34,000	31,000	△ 3,000 (△8.8%)
Quality of Life SU	185,000	175,000	△ 10,000 (△5.4%)	20,500	17,000	△ 3,500 (△17.1%)
Health Care SU	69,500	71,000	1,500 (2.2%)	15,800	16,000	200 (1.3%)
Nutrition SU	164,500	173,000	8,500 (5.2%)	6,800	6,800	- (-)
その他	1,000	1,000	- (-)	500	500	- (-)
調整額	-	-	-	△ 29,600	△ 31,300	△ 1,700 (-)
計	740,000	760,000	20,000 (2.7%)	48,000	40,000	△ 8,000 (△16.7%)

第3四半期以降の為替レート及び原料価格については、米ドルは140円、ユーロは140円、国産ナフサ価格は75,000円/KLを想定しております。

※ 上記の予想は、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、さまざまな要因により予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	41,735	35,850
受取手形、売掛金及び契約資産	164,128	169,965
有価証券	217	139
商品及び製品	69,183	88,957
仕掛品	12,171	12,368
原材料及び貯蔵品	59,128	65,580
その他	17,897	19,614
貸倒引当金	△1,552	△1,478
流動資産合計	362,910	390,998
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	92,052	96,843
機械装置及び運搬具（純額）	110,339	112,013
その他（純額）	68,883	82,074
有形固定資産合計	271,275	290,931
無形固定資産		
のれん	2,559	2,573
その他	12,417	13,072
無形固定資産合計	14,977	15,645
投資その他の資産		
投資有価証券	58,609	56,270
その他	19,488	21,965
貸倒引当金	△300	△280
投資その他の資産合計	77,796	77,954
固定資産合計	364,049	384,531
資産合計	726,959	775,529

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	92,068	92,814
短期借入金	89,992	103,315
未払法人税等	3,466	4,877
引当金	134	5
その他	48,839	46,830
流動負債合計	234,502	247,843
固定負債		
社債	10,000	10,000
長期借入金	28,627	28,407
引当金	2,626	2,461
退職給付に係る負債	31,559	31,276
その他	7,439	21,508
固定負債合計	80,253	93,654
負債合計	314,755	341,498
純資産の部		
株主資本		
資本金	33,046	33,046
資本剰余金	31,392	32,205
利益剰余金	309,507	320,459
自己株式	△11,528	△4,120
株主資本合計	362,417	381,591
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	21,331	19,485
繰延ヘッジ損益	△4	4
為替換算調整勘定	4,381	14,934
退職給付に係る調整累計額	△975	△589
その他の包括利益累計額合計	24,732	33,834
新株予約権	619	622
非支配株主持分	24,435	17,983
純資産合計	412,204	434,031
負債純資産合計	726,959	775,529

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
売上高	330,267	380,602
売上原価	233,586	277,284
売上総利益	96,680	103,317
販売費及び一般管理費	73,664	82,503
営業利益	23,015	20,813
営業外収益		
受取配当金	777	928
為替差益	—	3,365
持分法による投資利益	72	93
その他	503	395
営業外収益合計	1,353	4,783
営業外費用		
支払利息	530	750
固定資産除却損	593	692
為替差損	56	—
その他	2,298	1,634
営業外費用合計	3,478	3,077
経常利益	20,891	22,518
税金等調整前四半期純利益	20,891	22,518
法人税、住民税及び事業税	4,547	5,563
法人税等調整額	825	△107
法人税等合計	5,373	5,456
四半期純利益	15,517	17,062
非支配株主に帰属する四半期純利益	750	493
親会社株主に帰属する四半期純利益	14,766	16,568

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	15,517	17,062
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,806	△1,854
繰延ヘッジ損益	△12	8
為替換算調整勘定	1,248	10,994
退職給付に係る調整額	412	391
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	2
その他の包括利益合計	3,454	9,543
四半期包括利益	18,972	26,605
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	18,101	25,670
非支配株主に係る四半期包括利益	870	935

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	20,891	22,518
減価償却費	18,875	19,563
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	608	△108
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△46	△121
受取利息及び受取配当金	△834	△1,075
支払利息	530	750
持分法による投資損益 (△は益)	△72	△93
固定資産処分損益 (△は益)	155	366
売上債権の増減額 (△は増加)	△4,604	△2,272
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△13,712	△21,725
仕入債務の増減額 (△は減少)	5,810	△1,184
その他	△70	△2,960
小計	27,532	13,657
利息及び配当金の受取額	843	1,100
利息の支払額	△539	△753
法人税等の支払額	△7,734	△3,591
営業活動によるキャッシュ・フロー	20,102	10,412
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△16,893	△19,979
有形固定資産の売却による収入	—	80
無形固定資産の取得による支出	△1,205	△1,105
投資有価証券の取得による支出	△40	△85
投資有価証券の売却による収入	818	0
貸付けによる支出	△384	△98
貸付金の回収による収入	198	78
その他	599	134
投資活動によるキャッシュ・フロー	△16,908	△20,975

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△2,007	14,380
長期借入れによる収入	9,034	109
長期借入金の返済による支出	△6,932	△5,451
リース債務の返済による支出	△285	△480
自己株式の取得による支出	△2	△763
自己株式の売却による収入	0	0
配当金の支払額	△3,261	△3,914
非支配株主からの払込みによる収入	0	0
非支配株主への配当金の支払額	△88	△192
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△60	△3
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,603	3,684
現金及び現金同等物に係る換算差額	418	1,317
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	8	△5,561
現金及び現金同等物の期首残高	46,360	40,712
現金及び現金同等物の四半期末残高	46,368	35,151

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

米国会計基準を適用している在外子会社において、第1四半期連結会計期間より、ASC Topic842「リース」を適用しております。当該会計基準の適用が四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	Material Solutions Unit	Quality of Life Solutions Unit	Health Care Solutions Unit	Nutrition Solutions Unit	計				
売上高									
外部顧客への売上高	140,889	82,735	26,617	79,479	329,722	545	330,267	—	330,267
セグメント間の 内部売上高又は振替高	407	20	—	23	451	532	983	△983	—
計	141,297	82,755	26,617	79,503	330,173	1,077	331,250	△983	330,267
セグメント利益	17,964	9,324	5,252	2,085	34,626	251	34,877	△11,861	23,015

(注) 1 「その他」は、報告セグメントに含まれない損害保険・生命保険の代理業務等であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	34,626
「その他」の区分の利益	251
セグメント間取引消去	△7
全社費用(注)	△11,899
その他の調整額	45
四半期連結損益計算書の営業利益	23,015

(注) 全社費用は主に特定の報告セグメントに帰属しない基礎的研究開発費であります。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	Material Solutions Unit	Quality of Life Solutions Unit	Health Care Solutions Unit	Nutrition Solutions Unit	計				
売上高									
外部顧客への売上高	172,895	87,195	33,993	85,970	380,054	547	380,602	—	380,602
セグメント間の 内部売上高又は振替高	162	18	—	29	210	551	761	△761	—
計	173,057	87,214	33,993	86,000	380,265	1,098	381,363	△761	380,602
セグメント利益	18,703	8,669	7,510	2,103	36,986	282	37,268	△16,455	20,813

(注) 1 「その他」は、報告セグメントに含まれない損害保険・生命保険の代理業務等であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	36,986
「その他」の区分の利益	282
セグメント間取引消去	0
全社費用(注)	△16,517
その他の調整額	61
四半期連結損益計算書の営業利益	20,813

(注) 全社費用は主に特定の報告セグメントに帰属しない基礎的研究開発費であります。